

共同政治研究中間報告書

—共同政治研究助成—

西暦 2023年(令和5年)5月16日

一般財団法人 櫻田 會
理事長 増田 勝彦 殿

研究代表者名 日野 愛郎

大学名・職位 早稲田大学政治経済学術院教授

2023年度櫻田會共同政治研究助成による研究を下記のとおり実施しましたので、その結果について最終報告します。

※印の記入項目に関する貴會ホームページへの掲載についても同意いたします。

記

※研究の名称 (英語も記入) Research Theme

ポピュリストの体制化というパラドックス:エリート概念の拡張とポピュリズムの新測定

The Paradox of Mainstreamed Populists:

Enriching the Elite Concept and Renewed Measurements of Populism

※研究代表者 Leader of the Research Team

氏名 日野 愛郎	Name of the Leader Airo Hino
所属大学・機関名 早稲田大学	Name of University Waseda University
学部・部課名 政治経済学術院	Faculty Faculty of Political Science and Economics
職位 教授	Title Professor
研究上の役割 プロジェクトの全体の統括	Role in the Research Principal Investigator

※共同研究参加者 Co-Researchers

1	氏名 粕谷 祐子	所属機関名・学部名 慶應義塾大学・法学部	職名 教授
	Yuko Kasuya	Faculty of Law, Keio University.	Professor
	研究上の役割 フィリピン調査の設計、データ分析・論文執筆	Role in the Research Designing surveys in the Philippines Data analysis and writing	
2	氏名 西川 賢	所属機関名・学部名 津田塾大学・学芸学部	職名 教授
	Masaru Nishikawa	College of Liberal Arts, Tsuda University	Professor
	研究上の役割 アメリカ調査の設計、データ分析・論文執筆	Role in the Research Designing surveys in the United States Data analysis and writing	
3	氏名 ケネス・盛・マッケルウ ェイン	所属機関名・学部名 東京大学・社会科学研究所	職名 教授
	Kenneth Mori McElwain	Institute of Social Science, University of Tokyo	Professor
	研究上の役割 調査の実施、データ分析・論文執筆	Role in the Research Survey management Data analysis and writing	
4	氏名 ファーヒ ロバート	所属機関名・学部名 早稲田大学・高等研究所	職名 講師(任期付)
	Fahey, Robert Andrew	Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University	Assistant Professor
	研究上の役割 調査の実施、データ分析・論文執筆	Role in the Research Survey management Data analysis and writing	
5	氏名 渡辺 耕平	所属機関名・学部名 早稲田大学・高等研究所	職名 招聘研究員
	Kohei Watanabe	Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University	Adjunct Researcher
	研究上の役割 ハンガリー調査の設計、データ分析・論文執筆	Role in the Research Designing surveys in Hungary Data analysis and writing	
6	氏名 宋 財法	所属機関名・学部名 関西大学・総合情報学部	職名 准教授
	Jaehyun Song	Faculty of Informatics, Kansai University	Associate Professor
	研究上の役割 実験の設計、データ分析・論文執筆	Role in the Research Designing of experiments Data analysis and writing	
7	氏名 三輪 洋文	所属機関名・学部名 学習院大学 法学部	職名 准教授
	Hirofumi Miwa	Faculty of Law, Gakushuin University.	Associate Professor
	研究上の役割 実験の設計、データ分析・論文執筆	Role in the Research Designing of experiments Data analysis and writing	

※英文抄録（研究目的、経過、成果 250 words 以内） Abstract (Purpose, Process, Significance)

In recent years, there have been an increasing number of cases in which populists who emerge with an anti-establishment platform have come to power. This list of these cases ranges from Donald Trump in the US to Viktor Orban in Hungary. In light of this paradoxical development, which could be called "populist institutionalization," this study improves the previously used index of populist attitudes and proposes a new index. Question items in the existing index of populist attitudes have limited the 'elite' image mainly to politicians. However, the institutionalized populists criticize so-called non-political elites, such as mass media, academics, bureaucrats, and business people, to arouse anti-elite sentiment and procure support from the general public. This study aims to accurately measure populist attitudes even in countries where populists have become institutionalized by devising a new index of populist attitudes that includes items on non-political elites. Existing indices measuring populist attitudes were devised on the assumption that populist forces are opposition parties, and it is self-evident that elites with vested interests are typically politicians. This study is an attempt to overcome this problem and is academically original and creative in that it proposes new question items that target non-political elites and verifies its validity by whether the index can be applied in comparative research by fielding surveys in various countries.

※研究の目的・研究方法・意義（和文 600 字以内）

近年、反エスタブリッシュメントを掲げて登場したポピュリストが政権に就く事例が増えている。このような「ポピュリストの体制化」とでも呼ぶべき逆説的な展開を踏まえて、本研究は、従来用いられてきたポピュリスト態度の指標を改善し、新たな指標を検討する。既存のポピュリスト態度の指標の質問項目は、エリート像を主に政治家に限定してきた。しかし、体制化したポピュリストは、マス・メディア、学者、官僚、財界人などのいわゆる非政治的エリート（non-political elite）を批判して反エリート感情を煽り、庶民からの支持を調達する。本研究は、非政治的エリートの項目を含む新たなポピュリスト態度の指標を考案することにより、ポピュリストが体制化した国においても、正確にポピュリスト態度を測定することを目指す。既存のポピュリスト的態度を測定する指標は、あくまでもポピュリスト勢力が野党であることを前提に考案されたものであり、既得権益を有するエリートが政治家であることを自明としている。本研究はこの問題を乗り越える試みであり、非政治的エリートをも対象とする新たな質問項目を提案して、各国での調査をもとに比較研究に耐える指標であるかを確認する点で高い学術的独自性と創造性を有している。

※当該年度の研究経過と結果の概要（以下の欄に 35 行以内(1500 字程度)にまとめる）

2022 年度の研究経過は以下の通り進んだ。年度の開始に先立ち、早稲田大学における「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」に 3 月下旬に研究計画書を提出し、4 月に実施されるハンガリー議会選後、ならびに 5 月に実施されるフィリピン大統領選前にそれぞれの国において世論調査することが承認された。フィリピン大統領選が実施

される5月10日に向けて、調査票の確定、ならびに、タグログ語への翻訳を進め、5月2日に300人を対象に予備調査を実施した。回答者が概ね20分以内に調査を終えていることやデータが問題なく取得できていることを確認した後に、5月3日より本調査を5月3日から9日まで行い、フィリピン全土から合計で2712人の回答を得た。

調査は全て Lucid Marketplace (Cint 社提供) を通して、以下の7社が保有するサンプルの提供を受けた。7社はサンプル提供が多い順に MakeOpinion GmbH-API、ResearchonMobile、Bitburst、Attapoll、TheoremReach、Persona.ly、Prodege である。Lucid Marketplace 社のサンプル構成ツールを使用し、フィリピンの有権者の縮図となるよう性別、年齢 (18-24 歳、25-34 歳、45-54 歳、55-64 歳、65 歳以上)、地域 (マニラ首都圏、ルソン島、ビサヤス諸島、ミンダナオ島) の3変数により事前層化を行った。調査開始時より若年層、ならびにマニラ首都圏のサンプルが順調に回収できたが、高齢層、その他の地域、ならびに男性のサンプル回収が滞ったことから、事前層化に応じたサンプル回収に近づくよう、回収が順調な層の回答を制限しつつ、回答報酬 (CPI) を上乗せすることにより回収が滞っている層から調査への協力を促した。最終的には、45歳以上の年齢層、男性、ならびにマニラ首都圏以外の地域の有権者が若干過少代表される形になったが全体的には事前層化に近い形でフィリピン社会を代表するサンプル構成になった。サンプルの偏りについては、必要に応じて事後層化により重み付け (weight) を計算し、分析の際に適用することを検討している。

一方、当初予定していたハンガリー議会選後の調査は、以下に記す課題があり、2022年度は調査しなかった。課題の1つは Lucid Marketplace が保有するサンプルが65000人程度であることは確認していたものの、条件を絞っていくと最大でも1000人程度になることが判明し、他のサービスを同時に利用する必要があることが分かった。また、ハンガリー語への翻訳を含め協力を仰いでいる Levente Littvay 教授 (中央ハンガリー大学) を2023年1月に早稲田大学に招聘した際に質問項目に関する検討を行ったが、陰謀論志向を測る質問項目について慎重に検討する必要があることが明らかになった。これらの点について検討を重ね、2023年度に調査を実施したい。

上記の通り、ハンガリーでの調査を実施することができなかったため、2022年度は、フィリピンにおいて2023年3月に再度調査を行い、2814人から回答を得た。サンプル構成など調査の設計は第1回調査と同様に Lucid Marketplace を利用した。大統領選前に実施した際は、ドゥテルテ大統領時であったが、2度目の調査ではマルコス・ジュニア大統領時であるため、異なるポピュリストを比較することが可能になる。また、ポピュリスト態度の尺度を構成するために、分析ソフト Mplus を購入し、分析を進めている。

※研究発表の計画、形式等

分析結果を論文にまとめ、国内外の学会において報告する予定である。また改訂稿を海外の査読誌に投稿し掲載することを最終的な目標に据え研究を進める予定である。

〔注〕 文責は貴研究グループに負っていただきます。個人情報等には十分ご注意ください。